

特集テーマ設定の趣旨

早 田 幸 政

中央大学理工学部教授

今日の高等教育政策の方向性として、大学には、学位等に対応した知識・能力や態度・志向性を「学習成果」として設定しこれを成就した学生に学位授与等を行うことを通じて、高等教育機関としての人材育成機能を発揮することが求められている。そしてそうした役割を大学が十全に果たしていることを内部質保証の仕組みの中で検証し、その社会的責任を果たすことが必要とされている。このことを踏まえ、大学の認証評価においても、「学習成果」のアセスメントを軸に、内部質保証の機能的有効性を評価するという方針を基軸に据えて、そのシステム改革が続けられている。

大学へのこのような政策的、社会的要請の中、今あらためて、「学習成果」の意義を問おうとするのが、本号（特集）の基本的趣旨である。

今日、「学習成果」とその挙証の在り方をめぐっては、予め設定した学習成果の中身を踏まえ、アセスメントの方法やその有効性評価について様々な検討がなされ、大学の教育現場や認証評価機関の間でも試行的な実践が展開されている。

「学習成果」をめぐるこうした課題の検討やその実践的営みを実りあるものとしていくためには、「学習成果」の構成要素が多岐に亘っていることを再認識することが大切である。同時に、各構成要素に対応したアウトカム評価を実効的なものとしていく上で、インプット、プロセスさらにはアウトプットに関わる諸条件の的確な把握と併せ、それらの諸条件が「学習成果」の個別的構成要素に及ぼしている影響の度合いを検証していくという視点をもつことも重要である。

このことに加え、国境の壁を越えて学術・科学技術

の発展に貢献し地球規模で展開する社会・経済活動の基盤を支える人材需要が急激な高まりを見せ、それに対応できる資質・能力や文化的理解を備えた人材育成の役割が大学に対して求められている。そうしたいわゆる「グローバルコンピテンシー」を育むための教育的営為を各国間比較の中で検討し、当該分野での我が国大学の位相を確認することも重要課題となっている。

ところで、大学間のグローバルな教育交流を円滑かつ効果的に促進していくに当たり、学位（及び修了証明など）や単位の国際的な等価性を確保するための仕組みの構築・運用が今求められている。そしてそうした目的の実現に向けて、各レベルの「学位」取得に必要な「学習成果」を各国間で比較検証しその同等性を承認するための国際的枠組みが形成されつつある。このことを踏まえ、上記国際的枠組みの実相を把握し、学位と「学習成果」の有機的関連性を高める試みを鋭意継続させていくことが、我が国高等教育にとっても不可欠の課題となりつつある。また国家間連携による大学教育質保証の枠組みがクロスボーダーな人的移動を促進する上で、我が国に及ぼす影響・効果を検証することも大切である。

上記2点は、「学習成果」のもつ性格・特質を異なるアプローチで考察しようとするものである。しかしその一方で、両者はそのいずれにおいても、大学教育の受益者である「学習者」の視点から「学習成果」の内容の明確化を図ることを前提に、その達成度を把握しこれを学位等や単位等の認定・承認につなげることを企図したものであるという意味において、高等教育の在り方を広く俯瞰した視野に立脚した考察が可能である

と考えられる。

本号(特集)は、学生の学習ニーズや人材育成に係る社会的需要を踏まえ「学習成果」の意義を再考しようと

するもので、上記のような大枠的な趣旨・目的の下で、各執筆者にそれぞれの立場からの論攷のご執筆をお願いした。